

令和 2 年度

事業所名： 麗の郷なごみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373200260		
法人名	社会福祉法人 慈孝会		
事業所名	麗の郷なごみ		
所在地	〒028-5222 岩手県二戸郡一戸町姉帯字下村24番地1		
自己評価作成日	令和2年9月14日	評価結果市町村受理日	令和2年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○河川や森林に囲まれた自然に恵まれた環境のもと、広々とした居住空間でゆったりと生活できる事業所です。  
 ○礼節を旨とし、その人の可能性を引き出しながら、その人らしさを大切に、いつも寄り添ったケアを提供します。  
 ○排泄の自立支援への取り組みとして、トイレでの排泄を基本とし、機能の維持を目指しています。  
 ○敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイなどが併設しており、互いの機能を活かしてより良いサービスの提供を目指しています。  
 ○夏祭りや、道路の清掃活動の実施、ボランティアの受け入れ、地域住民の避難場所として指定など、地域との関わりを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、一戸町姉帯地域の馬淵川沿いで自然環境に恵まれた場所に立地しており、同じ運営法人が特別養護老人ホームとデイサービス施設、有料老人ホームなどを併設し、建物は内部で連絡している。地域として高齢化や人口減少が進む中であって、法人全体として地域としての連携や交流活動に注力しており、夏祭りなどには多くの地域住民が参加し、恒例の行事となっている他、職員が地域の道路の清掃活動にも取り組み実践を重ねている。また、併設施設にある「あねたいホール」は、大雨増水の際には地域住民の避難場所としても機能している。法人の基本理念に「礼節を旨とする」とあり、職員は常に意識して寄り添った介護を心がけている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

事業所名 : 麗の郷なごみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○法人の基本理念・方針に基づき、毎年度事業所の業務目標を定め、会議や朝礼で確認、共有しサービスの提供に努めている。法人の基本理念・方針は共有スペースやパンフレットに提示している。	法人全体の基本理念と方針をもとに、事業所としての具体的な業務目標を年度ごとに作成している。これらはホール内に掲示のうえ、毎朝の申送り時に職員で唱和し、共有を図り一日の始まりとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○法人の夏祭り前に地域の方々による敷地内の草取りや、定期的なピアノ演奏などのボランティアの受け入れを行っている。また、地域の清掃活動や行事等を通じ、地域とのとつながりに努めているが、今年度は中止している。	例年、法人全体で開催する夏祭りは地域の住民や家族が参加し、100名を超える参加を得て盛大に行われている。地元婦人会やボランティアの訪問演芸披露会も利用者の楽しみになっていたが、今年はコロナ禍で中止となった。地域の道路清掃活動には法人全体で取り組み、職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○運営推進会議を通じて、利用者家族や地域住民に、事業所としての活動内容や介護保険制度などについて説明している。また、法人の地域貢献活動として、介護に関する説明会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○委員は各方面の方に依頼し、意見や要望等がある場合にはサービスの向上に活かせるよう努めている。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面での報告やアンケート調査等で会議の代替を行っている。	委員は、地域包括支援センター、民生委員、駐在署員、消防団などバランス良く構成されている。今年はコロナ禍のため1月、5月は開催できず、7月と9月は書面開催とした。9月にはアンケートも実施して意見などを伺う工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○市町村担当者への運営推進委員の依頼や、介護保険申請や生活保護に関する手続き、入所申込や待機者状況を伝えるなど、連携を密にしている。 ○広域事務組合や振興局に照会し、指導や助言を受けている。	運営推進会議には町の地域包括支援センターから職員が参加しているほか、日常的に担当者とは連絡を取っている。町主催の地域ケア会議や各種研修、交流会には職員が参加し、関係機関との連携も図っている。生活保護受給者もいるので、県振興局のケースワーカーの来訪もある。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○法人全体としての適正化指針を作成し、定期的な会議と研修を行っている。 ○転倒のリスクがある方や誘導が必要な方には人感センサーを使用し、身体拘束をしないケアを行っている。 ○夜間のみ防犯の為に玄関を施錠している。	身体拘束に関する指針を法人として作成済みである。委員会は毎月開催されており、会議の内容などは全職員に回覧周知されている。転倒予防等のため、家族に説明し了解を得て人感センサーを4名に使用している。スピーチロックも職員間で相互に注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	○高齢者虐待に関するマニュアルを確認しながら研修会を行い、虐待の早期発見や防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○外部での研修に参加した職員による復命研修会を行い、必要性がある場合には対応できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○入居前に十分な時間をとり説明した上、契約を取り交わしている。また、改定等の際は、運営推進会議の場で改めて説明等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○苦情事、相談事受付ポストを設置している。 ○利用者からの意見要望等は日常の会話から、その都度把握し、ご家族は電話連絡や面会時等に意見を聞きサービスに活かしている。	利用者の全員が意見を話せる状況にあり、買い物したい等の要望があり対応している。家族には毎月「なごみだより」を送り、各利用者の近況をお知らせしている。家族からは、面会時などに要望を聴き取るようにしており、入居後歩行が悪くなったとの指摘を受け、施設周辺の散歩コースを整備し、活用している例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○月1回の職員会議において、職員の意見を吸い上げ、運営に反映している。管理者と事業所リーダー職員は、法人主催の経営戦略会議に出席し、その結果を職員会議で報告している。	職員からは毎月の職員会議や毎朝の申し送りの際などに意見が出されている。活発に意見が出され、夏場の強い日差しの改善策、新たな行事の提案などがある。職員と管理者との個人面談は定期的には持たれていない。	管理者と個別に面談する機会は、職員・管理者双方にとって有益と思われることから、定期的な機会の設定を期待します。

事業所名 : 麗の郷なごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○職場環境の整備を行い、労働時間等は個々に応じた対応をしている。また、資格取得に関する法人の支援、資格に応じた手当の支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○新人職員への研修を開催している。 ○また、個々に応じた研修への参加、法人内部での勉強会の開催や、資格取得に関する法人の支援等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○いわて地域密着型サービス協会に加盟し、例年であれば研修会や定例会へ参加している。また、地域の施設交流会に参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○入居前の面談や施設見学において状況や困りごと等の確認に努めている。また、介護支援専門員からの情報を基に、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○入居申し込みや面談の際、聞き取りに時間をとっている。また、入居までの間に不安なことや要望がある際には電話連絡等に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○入居申し込みや面談の際、聞き取りによりニーズや必要なサービスを把握出来るように努めている。また、グループホームの利用について、担当の介護支援専門員等と適正かを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○おやつ作り、食後の片付け、洗濯物たたみ等、生活の中で役割をもってもらい、暮らしを共にする関係に努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : 麗の郷なごみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から面会や行事への参加、通院の同行等はない状態だが、電話連絡やオンライン面会等により家族との関わりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○地域の行事等に参加や、併設施設を利用の方(知人)へ面会に出掛けて交流を図っていたが、現在は行っていない。 ○例年は、家族や親戚が面会に来所するほか、お盆の墓参での家族との外出、外泊があり、事業所行事には家族に案内を出している。	お盆や正月には、家族が実家やお墓参りに連れて帰り、懐かしい時間を過ごしたり、また、隣接する法人の特養やデイサービスに知人が入所して、相互に面会交流していたが、コロナ禍のため、現在は面会禁止になっている。理容は全員訪問理容を利用しており、新たな馴染となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○お客様同士の相性を考えた対応や配慮をしている。互いに協力しながら生活ができる関係性作りを努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○医療機関への長期入院や、他の施設への住み替え等によりサービス利用が終了する場合でも、不安が解消されるよう支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○利用時の面談、その後の生活の中での会話等の中から、希望や意向を把握出来るように努め、気付きは職員間で共有している。	すべての利用者が、言葉で思いや意向を伝えることが出来ている。飲み物が欲しい、何かやることがないか、家族と会いたい等の希望、要望を出されることが多い。職員は可能な限りその意向に沿った対応を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○介護支援専門員から情報を得るとともに、入居申し込みや事前面談、その後の生活の中での把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○日常的に確認し、ケース記録として残している。また、事業所内での職員会議において周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○介護計画は月1回開催する職員会議においてモニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しをしている。また、新たな課題や気付きは常に朝礼などで確認している。 ○家族の希望は、電話連絡や来所時等に確認し、出来るだけケアに反映するように努めている。	計画作成担当者が、利用者家族、かかりつけ医からの意見を取り入れ、介護計画の原案を作成し職員会議でのカンファレンスにおいて検討のうえで、決定している。計画の見直しは、モニタリングを経て原則6か月毎に行っており、日常生活動作の維持を基本とする支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○職員会議、朝礼、ケース記録で情報の共有をし、必要に応じて介護計画を見直しより良いケアを目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○外来受診が難しくなった方には訪問診療や受診の同行を行っている。 ○併設施設での行事への参加をしている。 ○利用に慣れるまでの間、必要に応じて担当介護支援専門員の協力を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○かかりつけ医の訪問診療や地域の理容所の訪問理容の協力を得ている。 ○地域の行事見物や参加、外出する際にはお客様の出身地等も考慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○入居前のかかりつけ医が事業所で設定している協力病院である場合が多い。家族の希望がある場合はかかりつけ医に受診している。 ○年1回健康診断を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医でもある医療機関をかかりつけ医にしている利用者が7名と大半であり、昨年より月1回の訪問診療を受けている。他の2名は町内の個人病院がかかりつけ医である。歯科治療も訪問診療での対応が出来ている。併設の特養の看護師が兼務で日常の健康管理に当たっており、安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○看護師は併設施設との兼務であるが、日常的に報告・相談し助言や指示を受けて支援している。また、24時間連絡体制を確保している。		

事業所名 : 麗の郷なごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	○入院時の情報共有シートの活用、入院中は早い段階で面会や電話連絡により病院関係者と連携を図り、退院時カンファレンスに参加し情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○重度化対応指針に基づき入居時に説明し同意を得て、可能な限り事業所での対応に努めている。事業所での対応が難しくなった際には、家族と話し合いを行い、医療機関等への入院や併設する特別養護老人ホームへの住み換えを支援している。 ○体調に変化があった場合には、医師の指示のもと改めて家族の意向を確認し対応している。	入居時には重度化した場合の対応について、本人や家族に説明している。実際は、重度化した場合、併設の特養へ入所することが多い。協力病院の医師からは、看取りへの協力の申し出を話されることもあるが、事業所自体が未経験であり、職員の不安感もあることから、現状取り組みには至っていない。	協力医師の確保が見込める状況となっており、看取りに関する勉強会など徐々に進められることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○マニュアルを基に研修なども実施しながら対応できるよう体制を整えている。 ○契約時の際、緊急の場合の対応を家族に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○年2回総合防災訓練を実施している。 ○地域の方にも災害時の協力は依頼している。 ○毎年のように河川が増水するが、その場合は早期に判断し、地域の避難場所にしてされている併設施設に避難している。	年2回、防災訓練を実施している。地域の防災避難協力者として10名ほどの協力を頂ける。町のハザードマップでは、施設周辺の馬淵川の浸水想定が3m弱とされており、併設建物の2階にある鉄筋コンクリート造りの「あねたいホール」は、利用者のみならず地域住民の避難場所にもなっている。大雨増水の際には実際にこのホールに避難して過ごしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○プライバシー保護マニュアルを基に対応している。排泄等の失敗の際にも、人目につかないよう配慮し、声掛けや支援を行っている。日頃から法人の基本理念である礼節を重んじ対応している。	基本理念として「礼節」を掲げ、特に利用者の尊厳の確保やプライバシーの保護に配慮して介護に当たっている。プライバシーの保護マニュアルをもとに、利用者の心を傷つけない言葉かけ、羞恥心に配慮した言葉遣いを常に心掛けている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 麗の郷なごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○日頃の会話や行動から希望や好みを把握するよう努めている。 ○毎日の着替えや入浴時の衣類の準備、嗜好品など入居者に選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○訴えや意思を確認しながら、入浴や家事、その他活動などの支援を行い、一人ひとりのペースを大切にゆったりと過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○自宅で使っていた化粧用具等の持ち込みや、好みの髪型や衣類の用意等、一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○食事の準備や後片付け等一緒に行っている。手作り会として、お好み焼きやたこ焼き作り等を行っているが、今後は食事作りの機会を増やせるよう取り組んでいきたい。 ○例年は季節の行事食や、流しそうめん等を企画している。	献立は法人の栄養士が作成し、主菜は法人の厨房から配達されており、ご飯やみそ汁等は職員が担当している。利用者の多くは、料理の下拵えや盛り付け、片付けなどを手伝っている。月1回の手作り会は人気のお好み焼きなどを職員と一緒に皆で作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○確実な食事と水分が摂取出来るよう一人ひとりの状況の把握に努め、必要に応じて付加食や嗜好品を提供している。また、嚥下機能や口腔内の状態に併せて食事形態を変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○毎食後の声掛けや全介助、仕上げ磨き等、本人の力に応じた口腔ケアに努めている。必要に応じて保湿ジェル等使用している。また、歯科衛生士による口腔状態の把握、職員に対する指導、助言、研修を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○一人ひとりの排泄パターンや、尿便意がある際の仕草等の把握に努め、日中は全員トイレでの排泄に努めている。トイレの目印等に工夫している。食物繊維(サンファイバー)摂取による排泄しやすい環境づくりに取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、適時にトイレ誘導を行っている。日中は全員トイレで排泄し、夜間のポータルトイレ使用は3名、オムツ使用は2名である。トイレ誘導の際は羞恥心に配慮した声掛けを行っている。	



令和 2 年度

事業所名 : 麗の郷なごみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○一日に1500mlの水分摂取と食物繊維(サンファイバー)使用により自然排便を促している。また、運動量を増やす為、体操に取り組んでいる。必要に応じて下剤の種類や量、服薬時間などを調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	○曜日は固定せず、目安としての入浴時間帯はあるが、個人の意思を確認したうえで対応し、声掛けの工夫やタイミングを合わせることで定期的に入浴していただいている。 ○入浴剤やゆず湯を取り入れている。	週2回の入浴を基本としているが、本人の希望に合わせて何時でも入浴できる体制となっている。大型で少し深めの浴槽のリフト浴を4名の方が使用している。利用者は、職員と昔話をしながらゆっくりと楽しい時間を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○囲炉裏の間・ソファを活用し、個々に合わせた対応をしている。 ○居室内に馴染みの物の持ち込みや、備品等の配置を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○投薬説明書を確認し、把握に努め、必要に応じ看護師に確認している。 ○服薬の介助方法は個々に合わせた支援を行っている。症状等に変化があった際には、受診時に医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○個々の生活歴、やりたいことやできていることに合わせた役割作りを心掛けている。 ○嗜好品については家族の協力を得ている。 ○色々な気分転換方法を試して張りのある生活を送って頂けるよう工夫していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○事業所周圍に遊歩道を整備しているが、戸外に出掛けることが減っている。例年は、気分転換を図ってもらよう定期的に外出を企画していた。家族の協力を得て、自宅や墓参等に出掛けている方もいたが、現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から自粛していただいている。今後、日常的に外出できるよう支援したい。	コロナ禍のため思うような外出支援が出来ずに苦労している。施設周りの遊歩道を途中まで行き、戻ったりして散歩をしている。天気の良い日には外気浴で過ごしている。今までであれば、時期に合わせて季節を感じるドライブ等を楽しむことが出来ていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○お金を所持していることで安心する方に対しては家族と相談し協力を得ている。		

令和 2 年度

事業所名 : 麗の郷なごみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○家族の協力を得て、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○天窓からの日差しの調整や、結露による水滴防止のための改修、浴室やトイレは使いやすように改修している。 ○それぞれの空間で、配置の工夫や分かりやすい目印、季節に応じた装飾を行い、居心地よく過ごせるよう空調等の管理をしている。	中央の食堂兼ホールのほかに、2カ所に小ホールがあり、天窓からは明るい陽が差し込んでいる。空調はエアコンを基本として、冬季は床暖房とパネルヒーターを使用している。壁面には季節を感じさせる紅葉などを飾りつけている。利用者は多くの時間をホールで手芸、塗り絵、かるた取りなどで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○食堂以外に、二カ所の別れた空間があり、ソファ・ベンチ・囲炉裏の間・テーブル等思い思いにくつろげるスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○馴染みの物を持ってきていただけるよう入居前の説明文書に記載しており、事前面談の際に、使い慣れたものを本人や家族と一緒に選ぶ等の支援を行っている。基本的に持ち込みの品は少ないが、事業所備え付け品の配置等を工夫している。	居室にはベッド、筆筒、洗面台が設置され、エアコン、パネルヒーターで温度管理されている。家族写真、位牌などを持ち込み、寛げる自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○トイレや居室前の目印、衣類が選びやすい環境、ポータブルトイレや移動バーの活用、人感センサーの設置、おむつ類の置き場所などを工夫し、声掛けや誘導により、自立した生活が送れるよう支援している。		